



令和5年2月 分/日/日類

南陽市議会議長 船山利美殿

会派 政風会

会長

山口正雄

令和4年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項目	調査・研修内容
調査期日	令和5年2月2日(木)から4日(土)まで 2泊3日
調査場所	① 徳島県徳島市議会 ② 徳島県海陽町
調査目的	① 防災サポーター・自主防災組織・とくしま見守り ねっこの活動について ② 阿佐海岸鉄道「デュアル・モード・ビートル」について
調査概要	①  別紙1の通り  ②
その他	

## 調査概要

### ① サポーター・自主防災組織・とくしま見守りねっこの活動について

#### (1) 自主防災組織について

町内会、自治会単位での組織が756団体ある。それを学校区別にした地区自主防災連合組織が上部団体としてある。

連合組織は、下部団体の研修や活動を促進させる機能を持つ。連合組織は2年が任期、下部は本市と変わらない方々で構成されている状況であり、有事の際なかなか機能するとは感じられなかった。

ただ、この組織は避難所運営に特化しているところがあり、各避難所に「避難所運営の手引き」やLEDライトが備え付けられている。これらは大いに参考になる事項である。

また、市役所職員に対しての研修も繰り返されていて、有事の際に、職員として今何をしなければならぬかなどについて研修を行っており、これも非常に大事なことだと感じた。

#### (2) 防災サポーター（防災士資格保有者）について

防災サポーターから市民に対して、SNS及び広報誌による「今伝えたい・知って欲しい防災情報」の発信を実施し、大規模災害時には避難所等において市民をけん引する役割を担ってもらえる体制を構築するための防災サポーターの育成を図る事業。

現在15名が登録され、毎年15名ずつ増やしていきたい考え。南海トラフ地震の懸念が高まる中での取り組みの一つと感じた。

#### (3) とくしま見守りねっこ

要綱では、対象者が65歳以上や障害者等の方々のお宅を訪問の際となっているが、民間企業者が30社、関係機関9か所、地域の見守り団体等などが協力して見守りするもので、何時伺うと決まったものでなく、伺う機会があったときに意識して見てくるというもので

- 新聞や郵便物がたまっている
- 洗濯物が取り込まれていない
- 電気・ガス・水道等の使用状況が不自然
- 窓・カーテン・雨戸の開閉された様子がない
- ゴミなどが処理されずたまっている

○ 最近、姿を見ない

などを意識して見て回り、異常と感じた時は、地域包括支援センターや障害福祉課に連絡するもので、令和1～3年までの異常が感じられた実績は、令和1年が34件、2年が53件、3年が40件。

そのうち救急搬送が合計27件、死亡で発見が19人などとなっており、見守りねっとの重要さと、必要性を感じた。

② 阿佐海岸鉄道「D・M・V (デュアル・モード・ビークル)」について

ネットで検索した段階では、車両価格2000万円、メンテナンスコスト、ランニングコストとも1/4や1/8程度に軽減されるという情報の中で、もしかしたら山形鉄道の経営に活かされるかも?と思い訪問した。

しかし、次の点から難しいと判断せざるを得なかった。

① 車両価格が1億4000万円/台と高額。(改造費用が高額)

一台の乗車人数は運転手含め22人(乗客は18席+立ち席3人)

乗車時、車両バランスの関係から、どの椅子から座るかの順序があるようだ。

② バスの後輪が線路上を走ることによって駆動の役割を果たしているが、雪が降る季節の運行が危ぶまれる。

③ マイクロバスを改造した車両の為、乗降位置が低くなり、現状のホームでの乗降は難しく、改修工事が多額に上る可能性がある。

④ 安全システムの観点での整備がかなり必要となること。

⑤ フラワー長井線赤湯駅の線路の状態から、モードチェンジを行うための方法も課題と推察する。